

## 平成25年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	原価計算論A(Cost Accounting A)	授業コード	E043401
担当教員名	工藤 順一		
配当学年	2	開講期	前期
必修・選択区分	選択	単位数	2
履修上の注意または履修条件	原価計算は、机上で計算するだけでなく、実際に売られている製品に接し、それらの製造原価をイメージすることが大切です。たとえばカメラや計算機等の製品を実際に手に取って見て、それらの製品がどういう材料で作られており、いくらで売られているかをカメラ屋さんなどで見て下さい。そしてその上で、それらの製品を製造するとすると、どのような費用が必要になるのかを、創造してみてください。		
受講心得	1. 毎回必ず出席してください(欠席すると講義がまったく理解できなくなる恐れがあります)。 2. 電卓を必ず持参してください。 3. 指定されたテキストを必ず購入してください。		
教科書	TAC簿記検定講座著『合格テキスト日商簿記2級工業簿記Ver. 6.0』TAC出版		
参考文献及び指定図書	随時紹介します。		
関連科目	簿記入門、管理会計論A・B、経営分析		

授業の目的	私達がスーパーやデパートで買う商品には、値段がついています。その値段は、製造・仕入れにかかった「原価」と「儲け」が含まれています。(実際は、消費者が求める値段が先にあって、その値段から儲けをひいて、原価を決めることとなります)。本講義では、「原価」とはどのようなものであるのか。「原価」を構成する要素にはどのようなものがあり、どのようにして原価を計算するのか。そして、原価を下げるにはどうしたらよいか等を一緒に考える講義にしたいと考えています。
授業の概要	授業は、テキスト、レジュメを中心に進めます。また、次回の授業の最初に、復習の意味で、前回講義の練習問題を解いていただく形で進めていきます。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：原価計算とは何か</b> 工業簿記及び原価計算の基礎について商業簿記と比較しながら勉強していきます。	配布資料 演習の課題と解答例
<b>第2週：費目別計算 材料費の分類と購入原価について</b> 原価の3要素のうち、まず最初に材料費について、その分類・購入原価について学習していきます。	配布資料 演習の課題と解答例
<b>第3週：材料費の消費数量と消費単価の計算について</b> 材料の消費数量について、継続記録法・棚卸計算法を学び、材料の消費単価については平均法・先入先出法等について学びます。	配布資料 演習の課題と解答例
<b>第4週：工業簿記の勘定連絡</b> 工業簿記では、企業の製造活動について、帳簿に記録していきます。そのための製造活動について特有の勘定を学習していきます。	配布資料 演習の課題と解答例
<b>第5週：個別原価計算 製造間接費の意義</b> 個別原価計算とは何か、製造間接費の賦課・配賦について配賦基準等を学習し、製品への実際配賦を学習していきます。	配布資料 演習の課題と解答例
<b>第6週：製造間接費の予定配賦について</b> 製造間接費の実際配賦の学習が終わると、次に予定配賦について学習を進めていきます。	配布資料 演習の課題と解答例
<b>第7週：製造間接費の配賦差異について</b> ここでは、予定消費額と実際消費額との差異である製造間接費配賦差異について、予算差異、操業度差異等に分けて学びます(主に、公式法変動予算による差異分析)。	配布資料 演習の課題と解答例
<b>第8週：部門別原価計算 目的と手続きについて</b> まず製造部門とは何か、補助部門とは何かを学び、次に、製造間接費を部門ごとに集計するに当たり、製造間接費を部門個別費と部門共通費に分け、それらを各部門に賦課(配賦)します。これが第1次集計で、次に補助部門に集計された金額を各製造部門へ配賦する第2次集計についての学習します。	配布資料 演習の課題と解答例

<b>第9週：製造部門費の予定配賦について</b> 製造部門費を各製造指図書に実際配賦する計算方法や、製造部門費を予定配賦する場合の計算方法を学びます。つまり、個別原価計算において、製造指図書への原価集計を行うことを中心に学習をしていきます。		配布資料 演習の課題と解答例
<b>第10週：労務費の分類と賃金支払額の計算について</b> 次に、原価3要素のうち、労務費について、その分類及び労務費の計算について学習をしていきます。		配布資料 演習の課題と解答例
<b>第11週：賃金の支払い額と消費額について</b> ここでは、給与計算期間と原価計算期間のズレや未払い賃金、直接工の消費賃金の計算について学びます。労務費の計算のうち、予定消費賃率を用いる計算について ここでは、直接工の消費賃金の計算において、予定賃率を用いる場合の計算方法について学びます。		配布資料 演習の課題と解答例
<b>第12週：経費の分類と消費額の計算について</b> 原価の3要素の最後は、経費についてです。ここでは経費の分類、経費の4つの消費額の計算方法のうち、支払経費について学びます。		配布資料 演習の課題と解答例
<b>第13週：経費の分類と消費額の計算について（2）</b> ここでは経費の4つの消費額の計算方法のうち、残りの3つについて学びます。		配布資料 演習の課題と解答例
<b>第14週：個別原価計算の総復習（1）</b> 練習問題を解きながら、これまでの学習の総復習をします。材料費・労務費の分類と消費額の計算を予定配布等を使いながら行います。		配布資料 演習の課題と解答例
<b>第15週：個別原価計算の総復習（2）</b> 練習問題を解きながら、これまでの学習の総復習をします。製造間接費について、配布差異の分析を行いながら、部門別個別原価計算問題を解いていきます。		配布資料 演習の課題と解答例
<b>第16週：期末試験</b> すべての講義に関して総復習の意味でのテストを行います。 計算機の持ち込みはOKです。		配布試験資料 試験と解答例
<b>授業の運営方法</b>	(1)授業の形式	「演習等形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
<b>備考</b>		

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	塗装業を承継した若い人から「お客様に見積もりを提出したいがどうしたらいいかわからない」という相談がありますが、原価がわからないと、見積もりもできません。将来に備えて、まず原価へ関心を持ちましょう。
<b>【知識・理解】</b>	個別原価とは何か、どうやって計算するのか、といった基礎的な知識を身につけ、理解しましょう。そのためには、基礎的な用語に慣れ、理解することです。
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	基礎知識を元に、練習問題を解いていきます。また、見積書を作成しましょう。種々の図や公式を理解し、使えるようにしましょう。
<b>【思考・判断・創造】</b>	原価計算関連のDVDや新聞記事を紹介します。皆さんは、なぜそうなるかをよく考えて、解法を判断してください。できれば日商簿記検定2級の工業簿記に挑戦しましょう。

<b>○成績評価基準(合計100点)</b>			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	<b>期末試験・中間確認等(テスト)</b>	<b>レポート・作品等(提出物)</b>	<b>発表・その他(無形成果)</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。			<b>15点</b>	
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	<b>30点</b>			

<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。	<b>10点</b>	<b>30点</b>	
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。		<b>15点</b>	
<b>(「人間力」について)</b> ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。			

<b>○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安</b>	
<b>成績評価方法</b>	<b>評価の実施方法と達成水準の目安</b>
<b>レポート・作品等 (提出物)</b>	原則として、毎回講義の初めに課題を出します。提出をもって出席に代えますので、遅刻せずに課題を解いて提出してください。達成水準の目安は以下の通りです。Sレベル:達成目標を満たしている。Aレベル:ほぼ満たしている。Bレベル:なんとか満たしている。Cレベル:一部分満たしている。
<b>発表・その他 (無形成果)</b>	授業の中で適宜質問します。質問に対する解答については、成績評価において加点することがあります。